

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・12月号・付録
2010年12月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03) 5379-5521 / FAX(03) 5379-5510
ホームページ http://www.houkon.jp/
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉開催!

- 日時 2010年11月13日(土)13:00~17:00(開場 12:30)
- 場所 日本大学芸術学部江古田キャンパス 東棟2階 E207教室
- 主催 放送批評懇談会ギャラクシー賞報道活動部門委員会
- 後援 日本大学芸術学部放送学科
- 入場無料(定員100名) ※事前の申し込みは必要ありません。どなたでも入場できます。

2010年ギャラクシー賞「報道活動部門」受賞作を上映・鑑賞して、制作に携わった放送局関係者、選奨委員、会場参加者が語りあうシンポジウムです。ギャラクシー賞に輝く報道活動は日本を代表する優れた放送番組ですが、放送エリア外ではなかなか視聴する機会がありません。その上映は、報道をじっくりと振り返る得がたい機会です。

また、制作者、取材者、批評者、研究者、学生、視聴者などが一堂に会してテレビ・ラジオ報道について議論することは、報道の現状や課題を浮き彫りにし、放送にとって大きな意義があります。制作者、メディア関係者、研究者、メディアや表現を学ぶ学生、放送に興味をお持ちのみならずなど多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

〈プログラム〉

- 12:30 開場／受付開始
13:00~13:05 開会あいさつ
13:05~14:15(part1).....
●北海道テレビ「通年企画議会ウォッチ」上映
●札幌テレビ「聴覚障害偽装事件における一連の報道」上映
●ディスカッション《終了後10分休憩》
北村 稔(北海道テレビ)、眞鍋浩史(札幌テレビ)、放懇選奨委員
14:25~15:35(part2).....
●伊那ケーブルテレビジョン「上伊那の戦争遺構シリーズ」上映
●朝日放送「NEWS ゆう+ 追及! 終わらない年金問題」上映
●ディスカッション《終了後10分休憩》
伊藤秀男(伊那CATV)、天本周一(朝日放送)、放懇選奨委員
15:45~16:55(part3).....
●AMラジオ災害問題協議会「関西発 いのちのラジオ 災害への備え」試聴
●鹿児島テレビ「ナマ・イキ VOICE~オンナたちの小さな挑戦・20年」上映
●ディスカッション 谷 五郎(ラジオ関西)、石神由美子(鹿児島テレビ)、放懇選奨委員
16:55~17:00 閉会あいさつ
※各パートのディスカッションには放懇選奨委員が加わります。
※各総合司会は選奨委員長の碓井広義

〈会場へのアクセス〉

- 最寄り駅 西武池袋線 江古田駅
池袋から各停で10分
- 駅北口を出て右へ徒歩3分



〈問い合わせ〉

- 放送批評懇談会 03-5379-5521
(平日10時~13時/14時~18時)

ギャラクシー賞上期応募作品 昨年同期を上回る

10月理事会報告

2010年10月27日、理事会を開催した。

委員会報告

- ◇選奨事業委員会 小田桐委員長
・総会でも発表し、前回理事会で議論が出ていたが、選奨活動のいくつかの懸案に関して、以下の3点で、議論を深め、案を作り、正式に理事会に提案したい。
- ①選奨作品の呼称の再検討
- ②部門の分け方、及び、BS・CS・ケーブルテレビ・コミュニティラジオ等新しいコンテンツに関する部門の新設の是非
- ③選奨評価基準の明確化(明文化)とその公開方法。

選奨委員会4部門の各委員長を中心に議論し調整して案をまとめるつもりである。日程調整をして、11月初旬には第1回の会合を

持ちたい。ご協力をお願いする。↓了承

・第48回ギャラクシー賞上期の応募が締め切られ、選考委員会が開催されている。

応募作品数は各部門とも昨年同期を超えている。テレビ部門120本(18本増)過去最高、ラジオ部門31本(4本増)、CM部門122本(20本増)、報道活動部門9本(増減なし)。

・「聴く会・見る会」について。ラジオは先日行われ、報道活動も日程会場が決定し、準備中とのこと、そういった活動も積極的に展開していきたい。

〈テレビ部門〉川喜田副委員長・テレビ部門の選考会は、10月30日の予定。応募本数は120本で、BS、CSの参加が増えている。

・テレビ部門の「受賞作品を見て語り合う会」は、1月下旬開催を目途に、作品・会場選び等の準備を進めたい。前回ドキュメンタリだったので、今回はドラマ・バラエティでやれるか検討したい。

〈ラジオ部門〉桜井委員長
・10月14日に、合評会を開催した。今回は、HBCの超ワイド番組を取り上げた。4時間半は聞き応えがあった。

・ギャラクシー賞選考に関しては、今期は新委員が7名いるので、選考に入る前に、選考基準の話し合いをした。

・選考会は、20日、25日の2回に分けて行った。ドラマ・ドキュメンタリー部門に力作が多かったとの印象をもって。

・前理事会でも報告したが、第47回の「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」を2回開催して、その収支をまとめたところ、赤字となった。

特に、大賞受賞作品がJ-WAVEであったこと、もう1作がNHKのシリアスなドラマという特異性を重視したこと、さらに、過

去の開催時に実施したアンケートなどの情報から、多少費用がかかって、音響設備が良い所を参加者が望んでいるとのことなどから決定した会場の費用がその一因。

委員も反省する部分は反省しながら、一部カンパ等もした結果の赤字であった。その費用を会から支出するようお願いする。

〈CM部門〉五井委員長

・19日、上期の選考会を開催した。作業を効率化し、議論の時間に例年以上の時間をかけた。結果、13本の候補作を決めた。個人的感想としては、自身が委員を務めた4年前に比べて粒選りな作品が多いと感じた。これからも議論重視の選考会としたと考えている。

〈報道活動部門〉確井委員長

・選考会は、23日に開催した。新委員が7割、かつ大阪在住委員が2名という状況だったが、全員参加であった。応募本数が9本で、昨年と変わらなかった点に關し、まだまだ報道活動部門という部門があることが周知徹底されていないことを感じる。今回、NHKからの応募の中に、NHK地方局が軸となって行ったプ

ロジェクトがあった。まだまだ応募対象は広がる可能性がある。さらに応募を促すためにも、周知徹底に努めていきたい。

・選考基準の検討の件も、他の委員会の案も参考にさせてもらいながら、委員間で議論を進めていく。

・報道活動部門の「ギャラクシー賞受賞」報道活動を見て、制作者と語る会」は、11月13日、日大江古田キャンパスの教室を借りて行う(6ページ参照)。入賞作品6作品全ての作品の担当者が参加してくださることになった。そういった協力をいただきながら、かつ、会場費その他を工夫し、委員のカンパを受けても、若干費用が足りないことが確実なので、ラジオ部門と同じように費用の援助をお願いしたい。

◇前記報告に關して——橋本専務理事

「聴く会・見る会」の事業実施の際の費用負担の件で、委員に意見を求めたところ、滝野理事より、「聴く会・見る会」ともに、当会の活動として、重要な意義ある活動だと思っ。正式な会の事業であるならば、万が一、赤字が出た場合は、委員の負担

とするのは筋が違う。本来はきちんと予算化すべきである」という意見が出、今年度は予算化はされていないが、今年度はそうすることを前提に、今年度はそれに準じて処理するというところで了承を求める。↓了承。

その際、事業展開に關して、専務理事は当該委員会と綿密なコミュニケーションを取り、運営に關して適切な処理をするようにとの発言があった。

◇出版編集委員会 丹羽委員長

・12月号編集作業は終了。特集「テレビCMは届いているか?」。1月号は「第48回上期ギャラクシー賞発表」と「ヒミツの愛好番組」。各界著名人の愛好番組を特集。表紙は、役所広司さん。パーソンは、ポール・ガセクさん。2月号は、「放送批評」から数えて500号になるので、500号記念号として、様々な形で、放送批評を振り返る特集を企画検討中。さらに、『放送批評』時代の表紙・目次をweb上にアップして公開することを500号記念事業として発表し、作業にかかる。表紙は、SMA P稲垣吾郎さん。SMA Pは初登場。

朝昼のビュッフェでは行列が絶えなかった。名物は「あひるの舌」。珍しい食感らしいが、私は意気地なくチャレンジを見送った。

年間観光人口2500万人!

18日は蘇州観光。蘇州は水の都。上海から続く大デルタ地帯にあり、風光明媚で温暖。農作物に恵まれ、上海ガニを代表とする川と湖の幸にも恵まれた豊かな地だ。上海から高速道路で約2時間。高速と並行して走る、新幹線なら1時間という立地の良さ。驚いたのは、その人口で、蘇州一帯で1100万人というから、東京に匹敵する大都市である。

蘇州は「呉」の国。シルクが有名で、呉服の呉はここからきている。春秋時代(紀元前500年ごろ)の「呉」の都で、呉越同舟、臥薪嘗胆の言葉でも知られる。



上海ガニあらため蘇州ガニ?



同里の家並み。白壁と瓦屋根が美しい



退思園

旧市街はおおよそ縦5キロ、左右3キロの広さを堀で囲まれ、白壁に黒い瓦屋根の家並みに、細い水路が行きかう。高い建物の規制があり、古い町並みは昔のまま。また、庭園が点在し、世界遺産登録を受けた名園が9つを数えるという。その観光人口は、1年間で2500万人というから、これも驚異的な数である。フォーラムの会場となった蘇州会議センターは旧市街。ホテル周辺を探索したが、生活臭の立ち込めた裏路地に至るまで、ごみ一つ落ちていなかった。公衆トイレもそこかしこに整備され、箒を担いだ女性たちを、あちこちで見かけた。なるほど、蘇州は観光の都だったのだ。フォーラム一行は、空海も訪れたという「寒山寺」、世界遺産庭園の一つ「拙政園」を訪ねた。いずれも蘇州自慢の地。しかし、人人々でお寺も庭もぎゅうぎゅう詰め。年間2



小舟で同里の町を一周(左著者)



お目当ての紹興酒



旧市街の裏路地

500万人の現実を目の当たりにすることになった。

午後は、バスで30分ほど走り、郊外の同里に向かった。同里は素朴な味わいを残す町。訪れた「退思園」では上品な庭を楽しめた。小舟をオーダーして運河沿いに町を一回りすると、気分はまさに東洋のベニスだ。同里土産は紹興酒。夕食でふるまわれた絶品の紹興酒がこの地の産と聞いて、日本の一団で、小さな店先を品切れにしてしまった!

最終日の19日は、上海万博が予定されていたが、見送りに。時間潰しに蘇州東の工業団地の見学が組まれ、古い蘇州とは一転した躍進の姿を案内された。蘇州を後にして、上海浦東空港に向かう車窓には、高層団地の森がどこまでもどこまでも続いている。中国14億人。その巨大さを脳裏に刻みこんで、帰路に就いた。蘇州滞在中は、尖閣問題で日中間

が微妙な時だった。テレビでは、NHKがノーベル賞を伝えるシーンがぶつ切り切られる場面に遭遇したり、西安などの反日デモが伝わったりと緊張が漂っていた。しかし、蘇州は親日の地という。街でも観光先でも、地元の人たちの笑顔に迎えられ、不快な思いをすることは一切なかった。感謝したい。

さて、3国持ち回りで開催している日韓中、来年は日本の番だ。場所は札幌。中国大会は課題も残したが、あらためて知る文化差に驚きや発見のある時間を過ごせた。何よりも、3国が現在のテレビ番組を互いに堪能し、制作者が交流する貴重な機会となっていることは間違いない。番組視聴後のセッションでは、ドキュメンタリーの主観と客観が論議された。ドラマでは、日本出品作の社会派の視点が際立った。札幌もまた有益な大会になることを祈りたい。

◇マイベストTVプロジェクト——
滝野プロジェクトリーダー

・新しいサーバーへの移行を計画しているが、その際に、現会員の整理をどうするかが課題で、出来れば年内に処理したい。

◇企画事業委員会——中島事務局長
・来年3月開催で準備中・基調講演者などの人選、交渉中。

◇その他——中島事務局長

①入会 石川テレビ放送

②退会 エムワンプロダクション

③「日本映像事業協会」主催の「ヤング映像クリエイターを励ます賞」への後援依頼があった。↓了承

④日韓中TV制作者フォーラム参加報告（4〜5ページ参照）

⑤定款細則変更の件 定款細則に、プロジェクト・委員会の設置状況を示している条項があるが、2年経って変更もあるので、現状に即して改める。

(旧)放懇WEB委員会、マイベストTVプロジェクト、グラントデザイン小委員会。

(新)マイベストTVプロジェクト、財務プロジェクト、記念事業プロジェクト。

なお放懇WEB委員会は一旦解散するが、その必要性から改めて再開を目指すこととする。

◇次回以降の理事会日程

11月 11月30日(火)

12月 12月21日(火)

「出席」音好宏、橋本隆、小田桐誠、丹羽美之、桜井聖子、五井千鶴子、碓井広義、滝野俊一、飯田みか、川喜田尚、隈部紀生、河野尚行、嶋田親一、稗田政憲、中島好登

会議記録

「10月」.....

4日 企画事業委員会

14日 (選奨) ラジオ定例部会

19日 (選奨) CM選考会

20日 (選奨) ラジオ「音楽&エンタ

ティンメント・ワイド」選考会

21日 出版編集委員会

23日 (選奨) 報道活動選考会

25日 (選奨) ラジオ「ドラマ・ドキュメンタリー」選考会

27日 理事会

30日 (選奨) テレビ月評会

(選奨) テレビ選考会

紹介

自己紹介

竹林紀雄

およそ四半世紀をテレビの制作現場で過ごし、三年前から大学に勤務しております。テレビがつまらないと言われて久しいですが、面白いのか、つまらないのか、見る側の判断こそが、コンテンツとしてのテレビ番組の死活をかけた一線であることは創成期から変わりません。作り手は番組をより面白くしたいと力を注ぎます。つまらないものを作ろうとするテレビマンなどいません。しかし今、作り手の思いとは裏腹に、テレビにおける表現は危機に瀕しています。

パッケージメディアの普及、PCの飛躍的な機能向上、そしてブロードバンド化など情報環境は大きく変化しています。また、デジタル化は映像制作そのものを一般化させ、もはや映像はプロが特権的に操るものではありません。今、テレビというメディアに表現の可能性はあるのでしょうか。そして、もしあるとすれば、それはどのようなものなのでしょうか。放送批評懇談会での活動を通して探ってみたいと思います。

第10回日韓中TV制作者フォーラム 中国蘇州大会参加報告 歴史の都で行われた3国の番組交流

中島好登

各国の個性が出た参加作品

第10回日韓中TV制作者フォーラムが、10月15日から中国・蘇州で開催された。参加者は、日本33名、韓国33名、主催の中国が50名。日本団は、放送人の会16名、参加作品の制作者7名、放送番組センター、放送批評懇談会、放送文化基金、北海道大学の面々などで構成された。

今回の参加作品は、各国それぞれ4作品の計12本。日本からは、NHK「無縁社会」、読売テレビ「秘密のケンミンSHOW」、WOWOW「空飛ぶタイヤ」、テレビ金沢「田舎のコンビニ」、中国からは「嫁の素晴らしい時代」「春草」(ドラマ)、「赤いレース」「小人国」(ドキュメンタリー)、韓国からは「奴隷追跡」(ドラマ)、「ゴキブリソナタ」「おばさんたち、彼に惚れた」「家族のペルソナ」(ドキュメンタリー)が参加した。作品鑑賞は、会場に3つのスクリーン

ーンをしつらえ、日本語、韓国語、中国語それぞれの字幕スーパーが入ったものが同時に上映される形で行われた。

中国のドキュメンタリーは、2本とも子どもが主役。「赤いレース」は、体操選手を目指し猛特訓を受ける幼い子どもたちの姿を追う。「小人国」は、自由な教育方針をとる幼稚園を1年間にわたり記録した作品で、映画館で600回以上の上映が行われたという。いずれも、子どもを被写体として、大人の世界ではストリートに描けないことをメッセージしているようにも受け取れた。前者は競争という社会問題、後者は、自由だ。ドラマは2本とも、娯楽に徹した内容だった。「嫁」は、婚期を逸しかけた男女が出会い、ぶつかり、やがて結ばれていく姿をコミカルに描く36話の連続もの。「春草」は、日本の「おしん」に着想を得たという波乱万丈の物語だった。

韓国の「奴隷追跡」は時代劇。イ



会場となった蘇州會議センター。熱烈歓迎の横断幕



開会式



番組ディスカッション

ケメンがぞろぞろ登場する活劇で、国内では視聴率30%の人気ドラマだそう。家族のペルソナ」は、古い価値観による家族のあり方に問題提起した意欲作。「おばさんたち、彼に惚れた」では、韓国で日本と同じようなブームが起こっていることを知って驚いた。日本の中高年女性がペ・ヨンジュに夢中になったように、韓国の「オバサン」たちが若い俳優に心酔する様子が描かれている。ところが、中国の出席者によれば、中国にこうした現象はないそうで、中国には男女差別がないからだろうと分析していた。真偽はともかく、東アジアの3国間で、同じ現象の起こる国と起こらない国があるなど、違いを感じる一幕だった。

残念な事件は、韓国最後の作品上映で起こった。「ゴキブリソナタ」が、中韓のコミュニケーション不足(中国側説明)から、作品の一部しか上

映されず、終了してしまったのだ。怒った韓国側は、その後の番組視聴をボイコット。最優秀作品選抜の投票も棄権した。

韓国抜きで行われた投票と選考の結果、最優秀賞は中国「嫁の素晴らしい時代」に、優秀賞は日本「無縁社会」空飛ぶタイヤ」に贈られた。すべての作品が満足な形で上映され、競い合えたうえでの選出であれば、どんなによかったことかと思う。

フォーラムは、17日の晩餐会を最後に終了した。最後の晩餐には上海ガニも登場。私たちのテーブルでは、蘇州テレビの蔣さんが食べ方を実演して盛り上がった。ちなみに上海ガニと呼ぶのは日本だけ。もつとも有名な産地は蘇州・陽澄湖で、正しくは蘇州ガニだそう。

大会を通じてふるまわれた蘇州料理は、あっさり味で野菜たっぷり。とくに好評だったのが「紅油麵」で、